

I

出典 『キノコの教え』（小川眞）岩波新書

土の中の小動物の働きによって分解が進むという話題から、食物連鎖という物質循環について話題が展開します。カタカナや専門的な用語が多く登場しますが、「生物というのは、元の元素を見える形にしている仮の姿なのである」という説明の実相を具体的に捉えることが鍵になります。

問1【漢字の書き取りと読み取りの問題】（解答番号は①～⑦）

a 偏（片寄） b 雑木 c 剥 d 丁寧 e 孢子 f 培養 g 循環

全問正答者は0%でした。「剥」を書いていない答案が多く見られました。

問2【空欄補充 文脈把握に関する問題】（解答番号は⑧・⑨）

二つの空欄のすぐ後に「この小さな生き物の働きがあるからこそ、山に肥料をまかなくても…」との説明があります。空欄Ⅰの微生物の働きは「肥料」に関わることが理解できるでしょう。最初の段落で、動物は「巣穴のトンネルを掘って土を耕している」との説明があります。空欄Ⅱは「土を耕す」ことに関わる事が理解できるでしょう。空欄Ⅰの正答は⑥です。空欄Ⅱの正答は⑦です。正答率は85%でした。

問3【空欄補充 文脈把握に関する問題】（解答番号は⑩）

三つの空欄の関係は「生命の連続」という視点でとらえられるものです。「輪廻転生」という小見出しの文章全体を、元素が姿を変えながら受け継がれていく過程として捉えなおせば、分解－吸収－変換という関係は容易に理解できるでしょう。正答は⑤です。正答率は79%でした。

問4【空欄補充 文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑪）

山への化学肥料の使用をどう捉えるかは、空欄アを含む文の直前に、小さな生き物の働きがあれば、山に肥料をまかなくても木は立派に育つとの説明があることが鍵になります。正答は⑦です。正答率は79%でした。

問5【空欄補充 文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑫）

死ぬことと生れることの関係は、物質の循環そのものであるという文脈を読み取ることがポイントです。正答は③です。正答率は94%でした。

問6【傍線部の理由 文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑬）

傍線部はあくまでも推測なので、直前の「軟らかく、ピクルスのような味」という表現の意図を理解することが鍵になります。正答は④です。正答率は35%でした。

問7【傍線部の説明 文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は⑭）

傍線部の直前に「そのため」とあるので、前文の内容を正しく読み取り、何が餌になっているのか文の組み立てを把握することが大切です。正答は⑥です。正答率は83%でした。

問8【傍線部の理由 文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は **15**）

植物にとって有用な無機物が話題なので、「肥料袋」という言葉が用いられているという文脈を正確に把握することが鍵です。正答は⑤です。正答率は75%でした。

問9【傍線部の説明 文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は **16**）

「輪廻転生」は生と死のくり返しで、ここではその実像を物質の循環として捉えていることがポイントです。第四段落で「小さなものが大きなものの餌になる食物連鎖が成り立っている」との説明が既にあります。正答は⑧です。正答率は77%でした。

問10【内容理解による小見出しの選択問題】（解答番号は **17**）

動物の糞の話題が、土を耕すことに展開している文脈を理解し、動物の働きの本質がどこにあるかを捉えることが鍵になります。正答は④です。正答率は56%でした。

問11【内容合致問題】（解答番号は **18**・**19**）

正答は⑥と⑨です。①は「動物よりもキノコのほうが」が誤りです。②は「土の表面に団粒構造という落ち葉の厚い層を形成」が誤りです。③は「植物は小さな動物の格好の餌になっている」が誤りです。④は、白色腐朽菌と褐色腐朽菌との特徴を峻別せずに、混乱した説明となっていることが誤りです。⑤は「吸収率」が誤りです。⑦は「直接根から植物体に効率よくふたたび蓄えられ、菌根菌に供給される」が誤りです。⑧は「このため、一時、森林肥培という山に化学肥料をまくのが流行った」が誤りです。1問正答率は52%で、完全正答率は19%でした。

問12【本文標題の選択問題】（解答番号は **20**）

微生物や小動物が自然界で果たす役割を、「輪廻転生」や「生命の連続」という観点からとらえると、生命活動は実は物質循環の仮の姿であるとの文脈が読み取れます。正答は①です。正答率は77%でした。

II

出典 『生老病死の凶像学』（加須屋誠）筑摩書房

絵画、とりわけ仏教説話画をイコノロジーの手法で読み解くことを説明した文章です。本文で「三つの段階」「問題点は三つ」と明示された内容が、順番に説明されているため、情報を整理しながら理解することができます。

問1【漢字の書き取り問題】（解答番号は **21**～**27**）

a 騒然 b 均整 c 驚嘆 d 見識 e 皆目 f 射程 g 拘泥

「拘泥」があまりできていませんでした。完全正答率は4%でした。

問2【空欄補充・前後の文脈から適語を選ぶ】（解答番号は **28**）

正答は③です。それぞれ空欄直後の本文がヒントになりました。**X**には文学の享受者である「読者」が入ります。**Y**と**Z**は直後に「逆に」とあるので、**Y**に「絵師」、**Z**に「観者」が入ることがわかります。正答率は87%でした。

問3【空欄補充・文脈把握】（解答番号は 29）

正答は①です。直前に挙げられた小説の例でいう「読者」と「読書」を、それぞれ美術史に当てはめることで正答が導けました。正答率は85%でした。

問4【空欄補充・文脈理解】（解答番号は 30）

正答は⑤です。前後の文脈から、絵に描かれるものの約束事であることが読み取れます。正答率は44%でした。

問5【空欄補充・文脈理解】（解答番号は 31）

正答は⑦です。空欄 **ウ** の直前で、絵師や作品だけではなく、観者をも巻き込んだ世界の構造、そして社会構造全体を考察対象とすると述べられています。正答率は17%でした。

問6【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は 32）

正答は⑤です。「第一段階」の内容は第二段落、「第二段階」の内容は第三段落、「第三段階」の内容は第四～六段落から、それぞれ確認することができます。正答率は73%でした。

問7【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は 33）

正答は③です。パノフスキーのイコノロジーの問題点三点は傍線部 **B** の直後から順に指摘されています。正答③は第二の問題点として挙げられていました。正答率は91%でした。

問8【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は 34）

正答は⑥です。傍線部 **C** に続いて「たとえば」と例示される内容がヒントになりました。正答率は60%でした。

問9【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は 35）

正答は⑤です。傍線部 **D** に続く内容から「相対化」が導けました。正答率は40%でした。

問10【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は 36）

正答は⑤です。傍線部 **E** は「いうならば」と言い換えられた内容です。その前に書かれた部分がヒントです。正答率は25%でした。

問11【文脈把握と内容理解に関する問題】（解答番号は 37）

正答は③です。「この観点」とあるので、傍線部 **F** の前の内容に着目します。傍線部 **F** の一文前には「この視点」ともあり、さらにその直前を読み解くことで正答が得られました。正答率は35%でした。

問12【内容合致問題】（解答番号は 38）

正答は③・⑤です。③は十二段落目から、⑤は十一段落目からそれぞれ導けました。完全正答率は27%でした。